

令和元年度

授業改善推進プラン【小学校】

- ①令和元年度北区立小学校学力向上を図るための全体計画(様式1)
- ②令和元年度第2～6学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析(様式2)
- ③指導方法の課題分析と具体的な授業改善案 4教科(様式3)

東京都北区立豊川小学校

令和元年度「北区基礎・基本の定着度調査」を受けての各教科の分析	
国語	第3～5学年の同一集団の経年比較の結果を見ると、平均正答率が上昇している。第2～4学年は、全国の平均正答率を上回っている。第6学年を除き、どの学年も力を付けてきている。「話す・聞く」「言語についての知識・理解・技能」は、第6学年以外は目標値を上回っているとともに昨年度より平均正答率が上がっている。第6学年は「言語に対する知識・理解・技能」「伝統的な言語文化と国語の特質に関する事項」「読む能力」が昨年度より下がっている。
社会	第5・6学年共に、平均正答率は全国をやや下回っている。第5学年は、特に「先人の働き」の内容についての問題の平均正答率が大きく下回っている。しかし、基礎的な知識は身に付きつつあり、それに伴って活用する力も伸びてきている。第6学年は、「観察・資料活用の技能」の観点及び「工業生産」「農業や水産業」の内容に関する問題の平均正答率が大きく下回っている。基礎的な知識が身に付いていないために活用する力も身に付いていない。
算数	第2～4学年は、全体的に全国の平均正答率を上回っている。しかし、第3・4学年は、活用の力がやや下回っている。第5・6学年は、「数量や図形についての知識・理解・技能」「数学的な考え方」の観点と「数量関係」「数と計算」の領域に関する基礎力が下回っている。活用力はそれほど下回っていないので、基礎力を付ける必要がある。
理科	第4学年は、ほぼ全国の平均正答率に近い。第5・6学年の正答率が、大きく全国の平均正答率を下回っている。下回りながらも第5学年は、昨年度の第5学年より一般的にやや上回っている。特に「観察・実験の技能」が良い。第6学年は、すべての観点において昨年度の第6学年より下回っている。特に「観察・実験の技能」は、全国の平均正答率を大きく下回っている。

本校の教育目標

- たくましい子
- あかるい子
- かんがえる子
- やさしい子

学力向上に関わる経営方針

- ・校内研究の内容を国語科の指導の充実に焦点化し、単元を通して問題解決を目指す言語活動を展開する指導計画を立て、書くことの充実感を得る授業づくりを行い、言語能力の基盤を培う。
- ・授業改善プランを効果的に活用し、基礎基本の力を習得させる。
- ・自分の考えを100字で書き表す学習習慣を付ける。
- ・北区基礎基本調査の問題を今年度該当学年の問題を1月から2月に取り組み、定着の状況を年度内に確認する。
- ・情報活用能力の育成を継続し、学校図書館やNIEを活用した豊かな思考力・判断力・表現力を養う。

本校が児童に育成したい力

- ・各教科等で育成すべき資質・能力を育むための基盤となる基礎的・基本的な知識・技能を確実に習得できる力
- ・各教科等の特性に応じた見方・考え方を働かせて、自分の思いや考え方をもち、進んで表現する力

校内における学力向上推進体制

- ・北区基礎・基本の調査や都学力調査・全国学力調査の結果分析を基に、学力向上対策委員会で教科ごとの授業改善方法、指導の重点方針を決定する。
- ・国語科は、辞典の使用及び新出漢字の指導法やドリルを用いた習熟方法、視写、短作文の指導を繰り返し行うことにより基礎力を付けてきた。第6学年はさらに漢字を読み書く力を付けていく。また、「豊川小学校おすすめの本50冊」を低・中・高学年に分け決め、年間を通して多様な読書に取り組みるようにした。社会科は、世界地図や日本地図・年表を掲示して学年別に習得させる知識を日常確認できるようにした。また、各教室に新聞を配り、NIEタイムを設け、時事問題にも関心をもてるようにした。算数科は東京ベーシックドリルの活用及び教具の工夫を図り、体験して知識の定着を図る。理科は既習事項を常掲して、理科の用語の定着を図った。若手教員は、授業を公開して改善に努める。
- ・校内研究の主題を「自分の思いや考えをもち、進んで表現する児童の育成」とし、国語科の書くことを中心にした学習を通して、指導方法の工夫・改善を行う。
- ・学校図書館指導員を中心に学校図書館の整備・充実を図り、各教科で生かせるように計画した。3年生以上は「比べて読もう新聞コンクール」に全員参加する。
- ・第3～6学年に対して学力フォローアップ教室や第2学年の取り出し学習など授業時間外の個別指導を学校全体で支援し、基礎的・基本的な学力の向上を図る。

本校の授業改善に向けた視点

指導内容・指導方法の工夫	教育課程編成上の工夫	校内における研究や研修の工夫	評価活動の工夫	家庭や地域社会との連携の工夫
<ul style="list-style-type: none"> ・児童が主体的に学び、学ぶ楽しさを実感するために、体験的な活動を多く取り入れたり、問題解決的な学習を展開したりする授業を行う。 ・自分の考えを100字に表す学習習慣を付ける。 ・学習のめあてを提示し、授業展開の見通しをもたせる。 ・ICTを授業に活用し、視覚的にも分かりやすい授業を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・朝の時間を使い朝読書やNIE活動を行う。 ・年間を通した読み聞かせやお話を計画し、読書への意欲を高める。 ・行事を精選し、学力フォローアップ教室や放課後の学習時間を確保する。 ・ぐんぐんタイムを使い漢字・計算の習熟を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「自分の思いや考えをもち、進んで表現する児童の育成」を研究主題に、国語科の書くことを中心にして、校内研究を推進する。 ・研究授業とその事前授業、明桜SFでの研究授業など各学級2回の授業公開をする。専科もなるべく校内研究授業を行う。 ・若手教員の巡回指導や観察授業もすべての教員に参観を呼びかけ、授業改善につなげる場を多く設ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ○「指導と評価の一体化」した授業を行う。 ・各単元のねらいと評価規準を明確にしたきめ細かな学習指導計画を作成する。 ・1単位時間の中に児童がまとめを書く時間を設定し、評価規準に即した評価を行う。 ・評価の反省と、次時の授業の軌道修正、工夫・改善を行う。 ○「児童・保護者・地域への学校生活アンケート」に、授業に関する質問項目を設け、授業改善プランの評価を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校ボランティアによる図書活動(学校図書室の整備、読み聞かせ)や地域図書館からの貸与本の充実など、読書環境を整え、児童の読書への意欲向上を図る。 ・豊島中央通り商店街や学校通り商店街の教材化、王子消防署、王子警察、地域の工場等、地域の施設や人材から学ぶ機会を多く設定する。

〔様式2〕

令和元年度 第2学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

東京都北区立豊川小学校

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 教科の平均正答率は、基礎力については、目標値を6ポイント上回っている。区の平均正答率と、ほぼ同じである。活用力については目標値を1.7ポイント上回っている。 手紙を書く問題が目標値を0.2ポイント下回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 関心意欲態度は目標値を4ポイント上回っている。 話す・聞くは9ポイント目標値を上回っている。 言語についての知識・理解・技能は目標値を7ポイント上回っている。 読むことは目標値を4ポイント上回っている。 書くことは、目標値を1.4ポイント程度上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各領域観点において概ね目標値を上回っているのは基礎力・活用力ともに目標値を上回っていることに裏打ちされている。しかし、活用力をさらに高めるための具体的な手立てをとる必要がある。 事柄の順序に沿って、簡単な構成を考えたり、相手がたずねた内容に対して返事を書いたりする手紙を書く問題は無回答率が高く課題である。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 教科の平均正答率は、基礎力が6.7ポイント、活用力が6ポイント目標値を大きく上回っている。 数と計算、量と測定の領域は6から8ポイント目標値を大きく上回っているが、図形に関しては1.7ポイント上回っている程度である。 	<ul style="list-style-type: none"> 各観点は目標値を6ポイントから8ポイント上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 各観点領域ともに概ね目標値を上回っている。 算数に関する関心意欲が高い児童が多い。 量と測定の領域にある長さや時計に関しては目標値を12ポイント上回っており、知識理解の観点からも概ね満足できる状況にある。しかし、図形領域に課題がある。

〔様式2〕

令和元年度 第3学年「北区基礎・基本の定着度調査」(北区教育委員会)結果の内容別・観点別の分析

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 教科の平均正答率が、基礎力が目標値を6ポイント上回っている。区の平均正答率とほぼ同じである。活用力は、目標値を8ポイント上回っている。区の平均正答率とほぼ同じである。 内容別の平均正答率は、すべて目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別正答率は、すべて目標値を上回っている。書くことの平均は、10ポイント以上上回っている。 読むことについては、説明文の内容を読み取る問題で、事柄の順序などを考えながら内容を読み取ることの正答率が低い。 	<ul style="list-style-type: none"> 作文の問題は無回答率が10%あるが、書いた児童の正答率は80%に近い。無回答率を減らすことに課題がある。 話の内容を聞き取ること、漢字の読み書きは、平均正答率が97%と高く、今後も繰り返し指導をしていく。
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<ul style="list-style-type: none"> 教科の平均正答率は、基礎力が目標値を7ポイント上回っている。区の平均正答率とは、ほぼ同じである。活用力は、目標値とほぼ同じだが、区の平均正答率より2ポイント下回っている。 内容別平均正答率は、すべて目標値を上回っている。 	<ul style="list-style-type: none"> 観点別の平均正答率は、すべて目標値を上回っている。 数量や図形についての技能は、目標値より6ポイント高い。 数学的な考え方は目標値より全体は高いが、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> 活用のうち表現する力が満足できる回答状況になっていない。 例示があっても同様に思考し、表現する力や、回答した理由について、説明する力が十分でない。 時刻や図形に関しては、個人差が大きいので個別指導をする。

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、基礎力は目標値を3.1ポイント上回り、区の平均正答率と、ほぼ同じになっている。活用力は、目標値を6.2ポイント上回り、区の平均正答率を3.3ポイント上回っている。</p> <p>・内容別平均正答率は、言葉の学習が5.2ポイント、作文が3ポイント目標値を下回っている。</p>	<p>・書く能力を除き、観点別平均正答率は、すべて目標値を上回っている。</p> <p>・書く能力の観点別平均正答率が目標値を2.7ポイント下回っている。無回答率が20.3%あることが大きな要因と考える。</p>	<p>・作文は、無回答率が20%ある。書いた児童の平均正答率は70%に近い。無回答率を減らすことに課題がある。</p> <p>・話の内容を聞き取ること、漢字の読み書きは、平均正答率が90%と高く、今後も繰り返し指導をしていく。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、基礎力は目標値を6.4ポイント、活用力は目標値を7.1ポイント上回っている。</p> <p>・内容別平均正答率は、たし算・ひき算が目標値を下回っているが、それ以外は全て目標値を上回っている。</p>	<p>・観点別平均正答率は、すべて目標値を上回っている。</p> <p>・数量や図形についての技能は、平均正答率が80%以上になっている。</p> <p>・棒グラフと表の問題で、目盛りの大きさと最大値に着目して棒グラフがかけないことの理由を説明する問題の平均正答率が16%と低い。</p>	<p>・計算や量の測定等、基礎的・基本的な知識は身に付いている。一方で、複数の資料を読み取ったり、文章に表して答える問題では、正答率が下がる。一問一答ではなく、様々な視点から意見を出し合って考えを深める問題解決型の授業を進めていく必要がある。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、基礎力は目標値を1.7ポイント上回っており、区の平均正答率とほぼ同じである。活用力は、目標値を6.9ポイント上回っているが、区の平均正答率から2.1ポイント下回っている。</p> <p>・内容別平均正答率では、昆虫の体のつくり、風やゴム、電気・磁石の性質で目標値を下回っている。</p>	<p>・科学的な思考・表現は1.7ポイント目標値よりも低い。思考の基となる方位やゴムの性質の理解ができていなかったり、問いをもって調べる方法を考えることができていなかったりすることが要因である。</p>	<p>・内容・観点によって、得意・不得意とするものがある。</p> <p>・太陽と地面の様子では、太陽の見方は身に付いているが、太陽とかげの動きについては、実験結果から類推して考えることができていない。</p> <p>・電気工事の作業員がゴム製品を使用する理由を説明することができていない。電気の性質を日常生活に置き換えて考えることができていない。</p>

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を3.4ポイント上回っている。基礎力については3.7ポイント、活用力については2ポイント上回っている。</p> <p>・内容別の平均正答率は、漢字を読むが3.8ポイント、説明文の読み取りが1ポイント、ポスターを作るが2ポイント目標値を下回っている。</p>	<p>・観点別正答率は、目標値をどの観点に付いても上回っており、平均して力が付いているものと考えられる。</p>	<p>・作文に関する無回答率は22%と高い。ただ作文を書いている児童については、その中で50%が完答、それ以外も4項目中1つだけできていないのが30%と、正答率が高い。書くことができない児童への手立てが課題である。</p> <p>・漢字の読み書きについては定着していないので、学習の仕方に課題である。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を4.3ポイント下回っている。基礎力については、5.8ポイント下回っているが、活用は1.6ポイント上回っている。</p> <p>・内容別平均正答率は、地域の発展に尽くした人々では17.8ポイント、安全な暮らし(火事)では、5.4ポイント、地図の見方については11.5ポイント、県の様子は3.2ポイント、安全な暮らし(交通事故や事件)は3ポイント目標値から下回っている</p>	<p>・観点別正答率は、目標値を関心・意欲・態度については、2.3ポイント上回っているが、観察・資料活用については5.3ポイント、知識・理解については、4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・安全を守る活動、生活環境を守る活動、先人の働きでは、主に資料の読み取りができていないために、答えられていない状況である。資料から何を読み取ったらよいか分からないことが課題である。</p> <p>・地図の見方、県の様子では基礎的な内容で、知識として取得しておくべき内容が覚えられていないことが課題である。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を4.6ポイント下回っている。基礎については、4.2ポイント、活用については、6ポイント下回っている。</p> <p>・内容別正答率は、折れ線グラフと表は8.2ポイント、計算のきまり・変わり方調べは6.1ポイント、計算の復習は6ポイント、億・兆・がい数の表し方は5.3ポイント、角の大きさは5.3ポイント、面積は4.7ポイント、いろいろな形は4.1ポイント、分数は4ポイント、わり算は3.1ポイント、小数は2.7ポイント目標値を下回っている。</p>	<p>・観点別正答率はすべての観点において、特に算数への関心・意欲・態度や数学的な考え方が大きく目標値と離れている状況にある。算数への関心・意欲・態度も6.4ポイント下回っている。数学的な考え方は5.2ポイント、数量や図形の技能は4.5ポイント、数量や図形の知識・理解は4.2ポイント下回っている。</p>	<p>・定義と条件を組み合わせて考えることに課題がある。(折れ線グラフ、図形)</p> <p>・折れ線グラフや棒グラフの読み取りに関しては、無回答率が41.2ポイントと高く、答えを選択することもできていない、読み取り方に課題がある。</p> <p>・伴って変わる二つの数量関係を式に表す表し方が理解できていない。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を4.2ポイント下回っている。基礎力については2.9ポイント、活用については8.6ポイント下回っている。</p> <p>・内容別正答率は、ものの温まり方は16.7ポイント、自然の中の水は12.7ポイント、水のすがたは9.5ポイント、電気のはたらきは8.3ポイント、月と星は2.5ポイント目標値を下回っている。</p>	<p>・観点別正答率は、観察・実験の技能は目標値を上回っているが、他の観点は下回っている。特に科学的な思考表現は、5.1ポイント下回っている。</p>	<p>・月と星、水のすがた、自然の中の水、電気のはたらきに関しては、目標値よりも10ポイント以上低い。水の体積変化や蒸発については、無回答率が20%以上、水の温まり方をもとに、理由を推測するところでは、無回答率が25%以上となっている。知識とその知識をもとに推測することができていない児童が多い。</p>

国 語		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を2.6ポイント、基礎は目標値を0.9ポイント、活用は目標値を10.2ポイント下回っている。</p> <p>・問題の内容別正答率は、話し合いの内容の聞き取りは5.5ポイント、作文は8.6ポイント目標値より上回っている。</p> <p>・漢字を読むは、2.3ポイント、漢字を書くは9.8ポイント、言葉の学習は6.3ポイント、物語の内容を読み取るは2.9ポイント、説明文の内容を読み取るは9.2ポイント、報告文を書くは6.1ポイント、目標値より下回っている。</p>	<p>・観点別正答率は、関心・意欲・態度、話す・聞く能力、書く能力については目標値より上回っているが、読む能力、言語についての知識・理解・技能については、5ポイント以上目標値より下回っている。</p>	<p>・作文、文章の内容を聞き取る問題については、目標値と同程度、または目標値を上回っており、概ね良好な結果である。</p> <p>・漢字を書く問題については、正答率が③を除いて全てが目標値を下回っており、④に関しては無回答率が30%以上であり、送りがなのある漢字の書き取りに課題があると分かった。</p>
社 会		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を8.8ポイント、基礎は9.6ポイント、活用は5.4ポイント下回っている。</p> <p>・問題の内容別正答率は、日本の国土と人々のくらしは1.6ポイント、目標値より上回っている。</p> <p>・世界の中の国土は13ポイント、日本の農業と水産業は4.1ポイント、日本の食料生産は15.2ポイント、自動車をつくる工業は10.5ポイント、工業生産と工業地域は9.8ポイント、工業生産と貿易は10.2ポイント、わたしたちの生活と情報は8.7ポイント、わたしたちの生活と環境は4.8ポイント、目標値より下回っている。</p>	<p>・観点別正答率は、どの観点も約7ポイント以上、目標値を下回っている。特に、観察・資料活用の技能は10ポイント近く下回っており、課題である。</p>	<p>・世界の主な海洋の名称と位置についての問題では、正しい名称と位置が分かっていない児童が多く、無回答率も19.7%と高かった。</p> <p>・工業地帯・工業地域の立地についての問題では、無回答率が29.5%、情報を発信する側に必要とされる情報モラルについての問題では、無回答率が23%とどちらも数値が高く、資料を読み取り、活用する力に課題がある。</p>
算 数		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を8.6ポイント、基礎は7.4ポイント、活用は14ポイント下回っている。</p> <p>・問題の内容別正答率は、単位量あたりの大きさは1.3ポイント、合同・立体は1.9ポイント、目標値より上回っている。</p> <p>・計算の復習は5.4ポイント、整数の仲間わけは15.4ポイント、分数と小数は6ポイント、小数の計算は9.4ポイント、分数の計算は15.2ポイント、面積と体積は2ポイント、図形の角・円周は8.7ポイント、百分率とグラフは13.1ポイント、目標値より下回っている。</p>	<p>・観点別正答率は、どの観点も7ポイント以上、目標値を下回っている。特に、関心・意欲・態度は、14.4ポイント、数学的な考え方は11.2ポイント、目標値を下回っており、課題である。</p>	<p>・分数の計算は技能的な処理に課題があった。小数の計算は単位数あたりの大きさを求める際、正しい計算ができていない。百分率とグラフについては、表から割合を計算して、数値化する作業を行った児童がほとんどいなく、無回答率も68.9%と高く課題である。</p>
理 科		
内容別結果の分析	観点別結果の分析	内容・観点のクロス分析
<p>・教科の平均正答率は、目標値を6.7ポイント、基礎は6.2ポイント、活用は8.4ポイント下回っている。</p> <p>・問題の内容別正答率は、もののとけ方は1.8ポイント、目標値より上回っている。</p> <p>・天気の変化は4.1ポイント、植物の発芽と成長は1.6ポイント、魚のたんじょうは2.9ポイント、植物の花のつくりと実は7.7ポイント、流れる水のはたらきは0.8ポイント、人のたんじょうは7.7ポイント、ふりこのきまりは15.5ポイント、電流のはたらきは10.5ポイント、けんび鏡の使い方は18.6ポイント、目標値より下回っている。</p>	<p>・観点別正答率は、どの観点も5ポイント以上、目標値より下回っている。特に、観察・実験の技能については、16.5ポイント目標値より下回っている。</p>	<p>・けんび鏡の使い方、ふりこのきまりについては、観察・実験の技能に関する問題であった。けんび鏡の使い方、使用する道具の名前が習得できていないことが分かった。ふりこのきまりについては、事象を確かめるための条件と方法を考えることに課題があった。</p>

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充指導計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み書きは、1文字ずつ丁寧に指導したが、習得の度合いに個人差が大きい。 ・ノートやワークシートの実物を投影して、書き方を指導した。 ・話を聞く姿勢ができるのを待ってから話し始めるようにして、聞き方を指導した。 ・読書句間や図書の時間に豊川小のおすすめの55冊を読破する意識付けを行った。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなが書ける児童は、丁寧に書くことを目指すようにし、どの児童も繰り返し文字を書く練習を行う。また、言葉や文の中で、文字を使いこなせるようにする。 ・話を聞くときに、集中できるように意識付け、環境を整える。 ・図鑑などを好み、物語を読まない児童には、読み聞かせにより、読書の楽しさを味わうようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ひらがなの読み書きが困難な児童には、ひらがな表を持たせ、授業中に見られるようにする。また、特に必要な児童には、夏休みに個別に指導を行う。 ・教科書の題材の並行読書などで、さらに本に親しむ機会を設ける。「豊川小おすすめ55冊」を読破した児童は、校長先生に表彰してもらうことで、意欲を高めた。
2年	<ul style="list-style-type: none"> ・新出漢字の読み書きについては、個人差が大きかった。小テスト終了後の振り返りや、まとめの漢字テストを行うことで定着を図った。 ・生活科や道徳の授業でも書く活動を多く取り入れたが、書くことの無回答率が多かった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字練習の7ステップを活用し、既習漢字と関連した学習を進める。 ・授業のまとめや振り返りを自分の言葉でまとめる。 ・視写教材を取り入れ、文章の書き方や段落について学ぶ。 ・全文シートを取り入れ文章全体から捉える。 	<ul style="list-style-type: none"> ・既習の漢字については、文章を書く際に使うことを意識付けし、定着を図る。 ・短作文による書く活動を日常的に行う。 ・「豊川小おすすめ55冊」に取り組む。
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童自らが課題意識をもち、学習計画を立てて、学習に取り組める授業をしたが、国語に興味・関心をもつ児童が昨年度より減った。 ・漢字テストを週1回行い、復習して確実に力を付けるようにしたが、漢字の習熟は、個人差が大きい。 	<ul style="list-style-type: none"> ・書くことを各教科等またNIE活動を通して日常的に多く取り入れる。相手意識をもち、ふさわしい内容や言葉遣いに注意した。 ・「豊川小おすすめ50冊」に学年で取り組み、読書の幅を広げ、内容を振り返ることで読み取る力を付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字辞典や国語辞典を使い、自ら進んで疑問に思ったことや熟語について調べる習慣を付ける。 ・教科書の物語や詩などの音読がすらすらできるように、音読を行う。 ・書いた文章は、必ず読み直す習慣を付ける。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きについては学校で共通確認している方法で指導している。しかし、正答率に差がある。正答率が低い児童は、定着が図れていない。 ・問題文の理解ができていない。また、自分で文意を捉え、考えを書く力が身に付いていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習の際には、常に辞書を用いて練習を行う。漢字テストを振り返り、再テストを繰り返すことで定着を図る。 ・生活ノートの取組を継続して行い、日常の自分の考えを文章に表す力を身に付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・日常的に本に触れ合い、読む習慣を付ける。「豊川小おすすめ50冊」に取り組んだり、高学年用の50冊にも取り組めるよう言葉掛けをする。 ・新出漢字を学習する際、意味や漢字の使い方などを漢字辞典を基に理解できるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字の読み書きについては指導しているが、覚えるのを苦手とする児童が多く、定着が図れていない。 ・ねらいをおさえた上で授業を行っているが、繰り返しその授業を続けていくことが必要である。 ・問題文を理解できていない児童が多く、個別指導ができていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・漢字学習の際には必ず辞書を使って熟語を調べたり、繰り返しの練習を行うようにする。また書きながらその文を声に出して読んだり、何度も繰り返し練習することで知識となることを伝えていく。また漢字テストと再テストを繰り返し行っていく。 ・ねらいに沿った授業の振り返りを、100字程度の言葉でまとめて書く活動を入れる。 ・課題を設定し、文章を書く機会をつくり、書くことに慣れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書に出てくる資料や情報から分かったことを、ノートに書く活動を行う。 ・教科書や本を読む時には、文章中の大切な言葉を残しながら、用紙を短い言葉でまとめる活動を行う。 ・朝の読書の時間や、テスト後の隙間の時間を使い、本に触れる機会を作る。「豊川小おすすめ50冊」を読破できるように、こまめに声掛けを行う。

6年	<ul style="list-style-type: none">・漢字の学習については、漢字練習、小テスト、振り返りの指導を行っている。しかし、正答率の高い児童と低い児童の差は大きい。・文字を丁寧に書くことができない児童や振り返りがしっかりできていない児童への個別指導が必要である。	<ul style="list-style-type: none">・文字を丁寧に書くことに関しては、ノートを確認し、その場ですぐにやり直しをさせることで、丁寧に書く習慣を付けていく。・テストで振り返り、できていない場合の再テストを繰り返し行い、定着を図る。・漢字の書き取りを練習するだけでなく、熟語やどんな場面で使うのかを調べながら、学習を行う。	<ul style="list-style-type: none">・新しく学習する漢字が教科書などに出た場合には、その意味を辞書等を使って調べる習慣を付け、意味や漢字の使い方を理解できるようにする。・朝の読書の時間を利用し、本を読む機会を作る。
----	--	--	--

[様式3]

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（社会）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科に興味のない児童が多い。児童が課題をもって、学習計画を立て、調べたり、見学したりする学習を行い、課題に対して簡単な考察を行う授業の展開に努める。 ・資料の読み取りができない。資料の目的を知り、その見方や分析する力を身に付けさせる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地図記号を理解し、地図を正しく読み取れるようにする。八方位は理解できるようにフラッシュカードを使い、繰り返し指導する。 ・北区の土地の高低・交通・商店街・団地・川・工場などのつながりやおおよそを理解できるようにする。 ・工場や安全を守る人々の仕事を実際見学することを指導計画に位置付ける。 	<ul style="list-style-type: none"> ・公共施設やスーパーマーケット、工場見学などの体験を多く取り入れる。児童が課題意識をもって、見学や体験活動を行えるようにする。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・地図の見方や方角、地図記号などが確実に身に付いていない。 ・警察や消防の仕事や水道・下水道の仕事について、人々の工夫や努力について調べ、学習問題として設定し、課題解決を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・地図や地名が出てくる度に方角や地図記号が無いか調べる活動を行い、日常的に扱うようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・社会科見学等、実際に施設見学をしたり、直接話を聞いたりして、工夫や努力を理解できるようにする。 ・学習問題のゴールを明確にし、まとめの活動で学習内容の定着が図られているか確認できるようにする。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・児童が目的意識をもって学習するように、声掛けを行ってきたが、学習問題が児童に届いていないことが課題であった。 ・地図の見方については、授業の中で取り上げることが少ない。 ・資料活用を学習で行っているが、資料の読み取り方についてもっと細かく指導することが必要であった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業中に、それぞれの土地の学習をする際には地図帳で場所や地図の見方を確認する。 ・資料活用については、教科書やその他の資料から分かることをノートに書くようにしているので、繰り返し行う。読み取るポイントを伝えて自分で読み取れるようにしていく。 ・有効な資料をICT機器を使って掲示しながら、全体で読み取ったことを共有し合う。 ・本時に学んだことを短い言葉でまとめる機会をつくる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業で学んだ資料の読み取り方を、新聞の読み取りにも使えるようにしていく。そして資料から分かることと自分の考えをもつ習慣を付ける。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・教科書の写真を中心に児童の興味を引くような内容を意識し、導入を行ってきた。しかし、その写真の情報を読み取ることが難しい児童が多かった。 ・調べる活動では、本時の問題を解決するための調べ学習を行ってきたが、何を書いたらよいか分からず、何も書けずに終わってしまう児童もいた。 	<ul style="list-style-type: none"> ・写真を見せる際には、見るポイントを限定して、読み取れたことをノートに書かせ、必ず自分の考えをもつようにする。 ・手が止まってしまう児童には、個別に対応し、本時の問題が解決できる言葉やキーワードとなりそうな言葉を抜き取らせ、その意味や目的などを調べるよう声をかける。 ・「調べたい」と思うような導入の工夫を行う。写真や映像などの資料や発問の工夫を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本時で学んだことを書くだけでなく、調べて分かったことに対しての自分の思いや考え表現するために、「自分はどうか考えるのか」を問いかけ、考える機会を作る。

〔様式3〕

指導方法の課題分析と具体的な授業改善案（算 数）

東京都北区立豊川小学校

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充計画
1年	<ul style="list-style-type: none"> 教科書の絵を計算ブロックを使って数え、図や式に表して計算するという過程を丁寧に指導することで、思考の抽象化を行う。 数の合成、分解を繰り返し行うことで、数感覚を養う。 ブロックや指を使わないと計算できない児童が多い。 	<ul style="list-style-type: none"> 文章題は「合わせて」「全部で」「残りは」「違いは」などキーワードに注目して読むように指導する。 数の構成を覚えるように、繰り返し指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 個別に文意を解説したり、ブロック等で計算したりする必要がある児童には、教師が手助けする。 先に課題を終える力のある児童には、友達に理解できるように説明を考えるように指導する。
2年	<ul style="list-style-type: none"> 量と測定、時刻と時間の単元では量感等を捉えられていない。時刻と時間では学校生活の中で活用していく必要がある。 苦手な児童の多い加減計算を「ぐんぐんタイム」を活用して、伸ばしていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 算数的な活動を増やし、算数の日常化を図る。 図形の学習については、定義などの語句の定着を図る。 算数教室にある教具等を活用し、学習を進める。 かけ算九九検定を設定し、それに向けて、学年で教材教具を作成し、全員合格できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 量感を伴う必要がある単元については、単元終了後も教材を教室内に置き、日常的に触れられるようにする。 授業時間においてだけでなく、家庭学習の課題に、復習問題を定期的に取り入れる。 東京ベーシックドリルを活用して補充を行う。
3年	<ul style="list-style-type: none"> 計算ドリル等で繰り返し練習はしたが、3桁より大きい数になると繰り上がり、繰り下がり計算が習熟できていない児童が多くなる。 図は授業中に指導したが、文章問題を自分で図を使って解く能力が身に付いていない。 身近な長さ・時計を読むなどの既習事項が生活の中で役立っていない。 	<ul style="list-style-type: none"> あまりのあるわり算や途中に空位のある数のひき算などの間違いやすい問題を中心にして4桁までの加減計算が筆算でできるようにする。 時刻と時間の違いに気付き、何分前や何分後など時間をまたぐ時刻や時間を数直線を使って求められるようにする。 児童が授業を自らが振り返り、まとめる時間を作り、内容の定着化を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題から図やアレイ図を描いて、式を求められる力を付ける。 「ぐんぐんタイム」を活用して四則演算の力を伸ばす。 東京ベーシックドリルを活用して、各自の理解不足の問題を見付け、その補充を行う。
4年	<ul style="list-style-type: none"> 実感を伴った理解、及び日常生活で使用するイメージがもてていない。そのための指導を教室内でもできていない。 授業内での習熟の時間が不十分である。 	<ul style="list-style-type: none"> 四則計算は、繰り返し練習し、理解の定着を図る。 できるだけ実物を用意し、提示する。手で操作したり、授業内外でも具体物を提示し、興味・関心をもてるようにする。 授業や単元の終わりには、今後も習熟の問題を解き、定着を図れるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを活用し、補充を行う。 計算の仕方や公式を理解するとともに、その計算や公式の根拠や考え方を身に付け、課題解決ができる力を養う。
5年	<ul style="list-style-type: none"> 実感を伴った理解につながる具体的な資料提示をすることが足りない。 授業の中で学習した内容を習熟する時間が足りない。 	<ul style="list-style-type: none"> できるだけ実感が伴うような資料提示を行う。また実物提示が難しいものに関しては、ICT機器を使い、疑似体験できるようにする。 授業で自分の考え方をノートに書くが、それを友達に説明する機会をつくり、学習の中で内容を定着できるようにする。 今後も単元の終わりには繰り返し問題を解き、問題に慣れ、定着できるようにする。 手で操作する活動ができる単元については、出来るだけ操作を行えるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 東京ベーシックドリルを活用し、補充を行う。 学習状況を見て、繰り返しの練習が必要とするものについては、練習問題に取り組む。

<p>6年</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活で使用する場面がイメージできていないように感じる。そのため学習する意味を見いだせない児童もいる。 ・具体物を使用する授業もあるが、距離感や量感がなく、単位間違いなどをすることが多い。 ・今までの積み重ねが期待できず、6年生で本来学習する内容の前段階が理解できない児童が多くいるため、その差を丁寧に埋められる指導が十分できない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・どんな場面で使うのか、単元に応じて、日常生活で実際に使う場面や児童の身近なものを取り上げた授業を行う。 ・児童が馴染みのある身近な具体物を提示したり、想像させることで、実際の距離や量をイメージしやすくする。 ・個別の指導を行い、授業に加えて授業以外の場面でも公式、計算の仕方等を繰り返し行い、学習の定着を図る。 	<ul style="list-style-type: none"> ・計算の仕方や公式は知っていても、なぜそうなるのかを考えることは難しい。「なぜそのように考えられるのか」「なぜそのように計算できるのか」問いかけることで、自分で考えて解く力を付け、難しい問題が出題されても、今までの知識を応用して考えられる力を付けるようにする。
-----------	--	--	--

学年	指導方法の課題分析	具体的な授業改善案	補充指導計画
3年	<ul style="list-style-type: none"> ・植物や生物に興味をもてない児童がいる。植物や生物はなるべく個人や少人数で育て、その成長を観察することで、実感を伴った理解を図り、科学的な見方や考え方を育てる必要がある。 ・学習した内容が身に付かない。児童が見通しをもって観察・実験を行い、結果を考察したり、表現したりする力を付けることが必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な自然の事物・現象を対象として「比較しながら、調べる能力」を育てる。 ・問題解決の能力や態度を育成できるような学習活動を確実に展開する。 ・虫めがね、温度計などの器具の正しい使い方を指導する時間の計画を見直し、十分に確保する。 ・「問題をつかむ」「問題」「予想」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」「まとめ」の8つのステップが身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学んだことを生活とのかかわりのなかで見直す学習活動を重視する。
4年	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立て、実験や観察、考察をして結論を出す流れを実践しているが、事象や結果をその場で理解しても、知識として定着することが難しい。 ・実験器具や物、部位などの正しい名前や使用方法、注意事項も定着しない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察の後はグループごとに、結果の理由などを話し合う。復習を重ね、確かな知識とし、理解を深める。 ・実験時に器具を使いながら、説明するとともに、映像資料を用意し、繰り返し授業で用いる。 ・「問題をつかむ」「問題」「予想」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」「まとめ」の8つのステップが身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・グループ協議を基に学級全体で理解を深めるため、発表者が説明したり、聞く方がさらに質問したり等、お互いに伝え合える学習を展開する。
5年	<ul style="list-style-type: none"> ・予想を立て、観察・実験・考察をして、結論を出すという流れで行っているが、学習した内容の定着が難しい。 ・実験器具の名前や使い方など、紙面や教員用のもので説明しているため、実感的な理解につながっていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・観察、考察後にグループでの話し合いをする。実験観察を行った上で結果の理由・分かったことをグループ内で説明し合うことで、より理解を深めるとともに日常生活と関連付けられるようにする。 ・実験器具の名前、使い方は説明もするが、使いながら一緒に覚えられるような授業を展開する。 ・「問題をつかむ」「問題」「予想」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」「まとめ」の8つのステップが身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・児童同士、考察を説明をする機会(少人数)を多くすることで、説明する方はより自分の考えの理解を深めたり、聞く方はより具体的に質問をしたりして説明を聞くようにしていく。
6年	<ul style="list-style-type: none"> ・問題解決型の授業を意識して行い、実験や観察など体験的に学習できるよう授業を進めているが、結果は分かっても、実験の手順や操作方法、薬品の反応の仕方など、細かい部分が理解できていない。 ・分担して実験を行う場面では、協力して準備はするものの、班の中心となって動く児童が主に準備を進めるために、消極的な児童は、実験の意図や流れが理解できていないままになっていることがある。 	<ul style="list-style-type: none"> ・実験や観察を行う場合には、実験の手順を実際に体験する機会を作る。 ・言葉や文字の説明だけでなく、具体物を操作する様子を交えながら、説明を行う。 ・映像資料等も積極的に用いて授業を行う。 ・「問題をつかむ」「問題」「予想」「計画」「観察・実験」「結果」「考察」「まとめ」の8つのステップが身に付くようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> ・特に「自分の予想」をしっかりとつ時間を作り、それを確かめるための授業を行うことで、意欲的に学習できるようにする。